

平成22年度畜産研究所の基本方針

I 基本方針

当研究所は、「ぎふ科学技術振興プラン」（平成19年3月）に基づき、当県科学技術の振興に積極的に取り組んでいきます。

特に、当県の食料自給率の向上と県民に対する安全・安心・健康な畜産物の提供を最重点課題として位置づけ、関係部課及び関係機関と緊密な連携をとり、①家畜の育種改良の推進 ②畜産新技術の開発 ③畜産環境改善を中心とした研究開発に取組み、その成果を踏まえた技術支援により産業界の発展に寄与します。

II 具体的な施策

1 研究体制の推進

(1) 共同研究の推進

近畿大学との連携大学院制度による共同研究、産学官連携による共同研究を積極的に推進し、質の高い研究実施体制の構築に努めます。

(2) 公募型研究への積極的な取組

これまでの公募型研究の取組実績を踏まえ、今年度も研究開発の迅速な推進を図るため、産学官連携の強化により公募型研究に積極的に応募します。

2 重点化した研究開発の推進

(1) 家畜の育種改良の推進

1) 飛驒牛の育種改良

優良種雄牛の育種改良を推進し、「飛驒牛」の全国ブランドとしての基盤の確立に努めます。特に、次世代種雄牛として、「飛驒牛」の種牛性、体積を更に改良する種雄牛造成に取り組むとともに、おいしい牛肉の開発を進めるために探索研究を推進し、育種改良への活用を目指します。

また、現在活躍中の種雄牛「白清85の3」、「利優福」等の有効利用とともに、平成20年度年度承認の後代検定で脂肪交雑の産肉成績が歴代全国1位であった「花清国」等の改良増殖面での活用を推進します。

2) 乳牛の育種改良

雌雄判別胚の簡易移植技術確立等のバイオ技術開発の成果を基に、「家畜性判別胚供給事業」により優良乳用牛雌胚の供給、性判別技術の提供を実施し、県内乳用牛改良のレベルアップ、スピードアップを積極的に支援します。

同時に近年問題となっている繁殖性低下に対する改善技術の開発により、更なる改良増殖を推進します。

3) 「けんどん」及び「奥美濃古地鶏」の育種改良研究

「けんどん」生産に必要なナガラヨークとアイリスナガラの安定供給に努めるとともに、これらの肉質改良研究を推進します。

更に、筋肉内脂肪含量の多い（いわゆるサシが入る）こだわり豚肉生産のためのデュロック種（ポーノブラウン）の人工授精用精液の供給を推進します。

また、「肉用奥美濃古地鶏」の原種鶏の育種改良と肉質研究により高品質化を目指すとともに、種鶏の供給により積極的に生産基盤の支援に努めます。

4) 赤玉採卵鶏の開発研究

消費が伸びている有色卵のニーズに応えるため、岐阜県オリジナルの高品質赤玉鶏の開発を推進し、普及性を高めるために産卵性の向上に取り組めます。

また、効率的な育種改良を推進するため（独）家畜改良センター岡崎牧場及び県内育種会社との連携・分担を図るとともに、その普及を目指し、県内民間孵化場との連携を深めます。

(2) 畜産新技術の開発

1) DNA解析を利用した新たな育種技術の開発

飛驒牛の生産性や豚の筋肉内脂肪含量について、DNA解析手法を利用した染色体領域の特定による新しい育種手法の開発を目指し、（社）畜産技術協会付属動物遺伝研究所や（独）農業生物資源研究所との共同研究を推進します。

奥美濃古地鶏においても羽装の統一・増体重・歩留まりについて有用な遺伝子型を識別する手法の開発に取り組みます。

また、作出した体細胞クローン牛を利用して、近畿大学先端技術総合研究所との共同で有用特定遺伝子効果を比較検証するための研究を推進します。

- 2) 飼料用米を利用した自給飼料多給型畜産に関する試験研究の推進
乳牛や飛驒牛など大動物では飼料用米の消化性や栄養価等の飼料特性を解明するとともに、国産飼料利用率50%以上を目指した飼料米給与法の開発に(独)畜草研を中心とした共同研究で取り組みます。
豚や鶏の中小家畜では、飼料用米のトウモロコシ全量代替を含め、給与割合を高め生産物の高付加価値化につながる給与技術の開発を山形大学、東北大学等と共同研究で取り組みます。
- 3) ITを利活用した技術開発
無線ICタグを活用し、人工授精用の牛凍結精液の管理システムの構築を昨年度に引き続き、京都大学等と共同で実用化に向けた野外実証に取り組みます。

(3) 資源循環型社会への対応

- 1) 堆肥の流通促進と畜産施設の脱臭対策として、①アンモニアリサイクルの回収液の肥料取締法への公定規格改正を実現させることにより本装置の普及を推進し、臭気問題に対応しながら地域内資源を循環させるシステムの構築に取り組みます。②養豚経営に多く使用されている密閉縦型発酵装置にアンモニアリサイクルを組み合わせ、堆肥をペレット化する技術開発を推進します。
- 2) 機能性成分を有する県内農産物等地域未利用資源を採卵鶏用飼料原料として活用し、機能性成分を強化した鶏卵の作出を進めます。

3 産業界発展に寄与する技術支援

- (1) 飛驒牛部門では、肉用牛経営農家に対し、和牛の交配・飼養管理・繁殖管理指導に努め、飛驒牛の更なる銘柄化推進のために技術支援を行います。
- (2) 酪農部門では、堅実な酪農経営に必要な ①自給飼料増産・有効利用の技術指導 ②乳牛のカリウム摂取量の適正化指導 ③受精卵移植技術の普及指導を行います。
- (3) 養豚部門では、「けんどん」のブランド化支援、能力向上に結びつく豚人工授精事業の推進やデュロック種の生産現場での技術指導を行います。更にぎふ清流国体ブランド研究により良質豚肉生産基盤の構築と良質豚肉として認識できる基準の策定を行い県産豚肉のブランド力の向上に寄与します。
- (4) 畜産環境対策部門では、臭気対策を中心とした農家からの相談に、経営にも配慮した技術指導を行います。
- (5) 養鶏部門では、奥美濃古地鶏のブランド化の推進、採卵及びブロイラー経営農家の生産性向上に結びつく質の高い飼養管理技術の指導を行います。

4 研究成果の発信

(1) 研究成果の発信

研究成果は、学会や研究会へ積極的に発表するとともに、産業界や県民等にかかれた発表会を通して情報発信します。

また、マスメディアの更なる活用と、「研究所だより」研究所ホームページにより、リアルタイムで質の高い情報発信に努めます。

(2) 特許の出願等

研究成果を産業界で活用されるよう、特許の出願等に努めます。

①クローニン16欠損症の遺伝子診断法 (平成13年5月特許登録)

実施許諾：(社)家畜改良事業団 (平成21年度許諾料収入1,334千円)

②脱臭廃液と有機物からなる固形肥料製造技術 (平成19年8月特許登録)

③畜産農家から発生する悪臭物質の脱臭装置及び脱臭システム

(平成21年7月特許登録)

実施許諾：東海乳酪((株) (平成21年度許諾料収入155千円)

(3) 優良種畜の造成・配布

種畜の育種改良を推進し、研究成果として優良種畜及び精液を農家へ配布します。(和牛凍結精液、優良子牛、乳牛雌胚、種豚、豚人工授精用精液、種鶏用種卵、優良ひな)